

# 総 括 評 価 表

自 己 評 価		学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	学校関係者の意見		
評価指標（と活動計画）		評 価		
評価指標		評価指標による達成度	総合評価	
I 思考力や判断力を養うとともに、自主的・主体的な学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。	《全校レベル》 生徒自身が考え判断し実践できることを目指し、また、意欲的に学習に取り組む習慣を確立できるような学習指導の工夫や授業改善に取り組む。 《下位組織レベル》 ①年間2回の相互参観授業の実施や教員研修会、授業評価を通じて、教員の授業力の向上を図る。 [全教員] ②週課題は、思考力の育成や自主的な学習活動に繋がるとともに、提出を徹底させる。 [看護科] ③自主的な学習習慣を支援するため、課題学習の工夫・改善を図る。 [専攻科] ④生徒に学習の具体的な目標を持たせるため、各テストを計画的に実施し、事後の個別指導の充実を図る。 [教務課、各教科担任、HR担任] ⑤専門領域の教員研修に取り組み、専門科目の指導の充実を図る。 [全教員] ⑥家庭学習を充実させるため、予習・復習を必要とする授業展開や指導方法を工夫する。 [全教員]	①相互授業参観週間を年2回実施し、評価に基づいた授業改善を行う。	①相互授業参観を5月と9月の2回実施し、参観者の授業改善に繋げることができた。 A	教員自らが授業改善に努め、生徒の思考力・判断力を養う取り組みがなされていることは高く評価できる。また、個別指導も充実しており、生徒一人一人の学力向上のため、きめ細やかな指導が行われている。  授業展開の工夫を継続し、思考力や判断力の育成に繋げる。家庭学習における自主的な学習習慣が学力向上に繋がることを生徒一人一人に意識させる。 自分の考えを表現する機会を増やすとともに科学的な思考も深めていく。
		②研究授業を年3回実施。その後参加者による授業研究会を実施し相互評価を行う。	②基本研修該当者を中心に、研究授業を6回実施、授業後、研修会で協議した。 A	
		③週課題の出題内容の充実を図り、テーマを設定した調べ学習を取り入れる。また、期日までに提出できる生徒が98%以上。	③テーマを設定した課題を出題したり、調べ学習を取り入れ、主体的な学習に繋がった。週課題の提出率は98.1%でありほぼ全員が期日内に提出できている。 A	
		④専攻科において、思考判断能力を見るための尺度の数値が上がる。	④専攻科1年の2、3月の実習後、リフレクション学習により思考判断能力の強化を行った A	
		⑤授業評価で「授業の工夫・改善」の評価度が85%以上。	⑤「授業の展開方法の工夫」は[かなり良い]と[まあ良い]を合わせると84.3%であり、昨年度より0.1ポイント低下している。 B	
		⑥生徒が生活記録をふり返り、学習について考える時間を設け、70%以上の生徒が毎週10時間の自己学習ができている。	⑥毎週10時間以上の自己学習ができている者は約50.4%、毎週の家庭学習の平均時間は8.5時間である。「先生は家庭学習習慣づけに努力している」は89.4%であり、昨年度より4.2ポイント上昇している。 B	
		⑦適切なアドバイスや励ましをするための個人面談を年2回以上実施する。	⑦個人面談・三者面談を全員に2回実施した。また、成績不良者には保護者を交えて面談を行い、学習方法の改善に努めた。 A	
		⑧教員は専門領域の研修会に年1回以上参加する。	⑧専門性を高めるための研修会に全教員が参加している。 A	
		活動計画	活動計画による実施状況	
		自主的・主体的な学習の習慣化を図り、授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。 ①授業形態を工夫し、説明・発問・グループワーク等形態に変化をもたせる。 ・授業に情報機器を積極的に活用する。 ・専門領域の外部講師を本年度も継続して招聘し、最新情報を取り入れる。 ②定期考査や模擬試験返却時、個人面談を行い個々に応じたアドバイスや指導を行う。 ③課題テストにおいて60点に満たない生徒は居残り学習を行い、学力の向上を図る。	思考力を育成するための授業を工夫し、自主的・主体的な学習に繋げている。 ①調べ学習やグループ発表を取り入れた研究授業を実施した。看護教科では、ゼミ形式や屋根瓦方式の教育法を取入れている。専攻科においては外部講師を招聘し専門性を高めている。 ②学期末の成績不良者には、個人面談や保護者を交えた面談を実施した。 ③課題テストにおいて60点に満たない生徒、延べ112名が居残り学習を行った。	

# 総 括 評 価 表

自 己 評 価				評 価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）		評 価		学校関係者の意見	
		評価指標		評価指標による達成度	総合評価		
<p>II 臨床実習・臨地実習での指導方法を工夫し支援体制を整備するとともに、看護師国家試験全員合格を目指す。</p>	<p>《全校レベル》 臨床実習・臨地実習において必要な基礎学力の充実を図り、生徒の力量に応じた個別指導に取り組み、全員の看護師国家試験合格を目指す。</p> <p>《下位組織レベル》 ①看護科と専攻科の連携を深め、臨床実習・臨地実習指導の充実を図る。 [看護科教員] ②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。 [看護科教員] ③臨床側指導者と密接な連携を図る。 [各施設担当者] ④国試演習の充実を図る。 [進路指導課] ⑤模擬試験の有効活用に取り組む。 [進路指導課]</p>	<p>①生徒が意欲的に臨床実習・臨地実習に臨めるように事前指導の充実を図る。</p> <p>②個人面談による個に応じた指導に取り組む。適切な資料の提供等生徒が実習しやすいような支援体制を整える。</p> <p>③臨床指導者との連携を密にし、生徒の問題を早期に把握し適切に対処できるようにする。</p> <p>④臨床実習・臨地実習終了後は、生徒全員が、実習場面の振り返りを行う。</p> <p>⑤専攻科において、各模擬試験の有効活用を図り、必修問題8割、一般状況設定問題6割以上を取得できるようにするため再試験を実施する。</p> <p>⑥国試演習では看護師国家試験の出題基準を網羅し内容の充実を図る。</p>	<p>①各実習前に事前指導を行うとともに、看護科2年生には実習前総合評価を実施している。看護科2年生・看護科3年生の実習前には保護者全員に説明を行った。</p> <p>②実習前にはゼミ形式による看護過程の指導を行った。また、実習中は個別指導を行い、実習の充実に取り組んだ。インシデントレポートにより科学的思考の育成を図った。</p> <p>③実習中は病棟師長・臨地指導者と毎日連絡を取りながら実習指導を実施している。</p> <p>④看護科3年生及び専攻科生は実習終了後、実習場面の振り返りを行うことにより学習効果を深めている。</p> <p>⑤専攻科において、年間の模擬試験は1年生12回、2年生20回実施している。模擬試験で必修問題8割、一般問題6割に満たない者は再試験を毎回実施している。</p> <p>⑥国試演習では、出題基準に準拠した内容とし、各領域別に細やかな指導を行っている。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">(所見) 臨床実習・臨地実習では個別指導の充実や実習病院・各病棟スタッフとの連携を強化することにより、支援体制の整備に努めた。また、看護師国家試験全員合格をめざし国試演習や模擬試験の充実を図っている。</p>	<p>充実した臨床実習・臨地実習が実践できている。また、5年一貫看護師養成教育は、最年少で看護師免許を得るコースであるが、国家試験合格率100%と高い水準を維持できている。</p> <p>現代の医療現場はIT化が急激に進行しており、IT教育の一層の充実が望まれる。</p>	<p>看護臨地実習は学校外での学習となるため、生徒は不安や緊張が強い。効果的な実習を行うために今後とも実習前の指導を充実させ、良好な緊張感に変換させていく。</p> <p>実習中は個別指導を重視し、生徒一人一人の状態に応じた指導や支援を行っていく。</p>
		活動計画		活動計画による実施状況			
		<p>臨床実習・臨地実習に生徒が意欲を持って取り組み、実習を通じての学びを深め、看護師国家試験に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>①校内の講義・実習と臨床・臨地実習との関連を図り、適切な教材の提供を行う。臨床・臨地実習事前レポート課題の内容を精選し、長期休業前に提示する。</p> <p>②臨床実習・臨地実習中は随時、個別指導を行うとともに図書を活用させ、自ら学ぶ環境を整える。</p> <p>③病棟ごとの報告を徹底し、生徒・教員間で連絡・相談を行う。</p> <p>④各模擬試験の得点率が、必修問題8割、一般状況設定問題6割以上になるまで再テスト実施し、生徒個々の基礎学力の定着を図る。</p> <p>⑤補習や国試演習は習熟度別等のグループに分け、個に応じた指導が行いやすいようにする。</p>	<p>臨床・臨地実習を意欲的に取り組めることができるよう、指導を充実するとともに、定期的に臨床側と意見交換や交流会を開催している。</p> <p>①授業では臨床と関連した学習内容を取り入れ、教材を工夫し研究授業に取り組んだ。レポート課題は学習習熟度に応じた内容とし、実習において活用できるようにした。</p> <p>②臨床・臨地実習前及び実習中は文献を活用し科学的根拠に基づいた実践に繋げている。</p> <p>③午前・午後の実習終了後、生徒同士、教員間で申し送り事項を確認・共有している。</p> <p>④再試験・再々試験の実施により概ね達成できた。</p> <p>⑤補習や国試演習は習熟度別の編成とし基礎コースは個別指導や放課後の自習を実施した。</p>				

# 総 括 評 価 表

自 己 評 価		評 価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
<p>III あいさつ、ことばづかい、礼儀作法、時間やマナーを守る態度と好ましい人間関係を育成し、看護師として必要な資質の向上を図る。</p>	<p>《全校レベル》                      基本的生活習慣の確立を目指し、あいさつの励行や望ましいことばづかいや態度、マナーを身に付けさせ、習慣化を図る。                      《下位組織レベル》                      ①毎学期の生活目標を持たせ、主体的に行動できるようにする。[各HR担任、生徒指導課]                       ②多遅刻生徒への指導を徹底する。[各HR担任、生徒指導課]                      ③チャイムとともに授業を開始し、けじめをしっかりと付けさせる。[各HR担任、各教科担任]                      ④「服装・マナーアップ週間」を設定し、頭髪・服装指導に取り組むとともに、相手や場に応じたことばづかい・礼儀・あいさつ・マナーについて自己評価させ、適切に対応できるように指導する。[環境保健渉外課、生徒指導課]                      ⑤生徒会や生活委員等によるあいさつ運動を積極的に展開する。[生徒指導課・特別活動教育相談特別支援課]                      ⑥いじめの未然防止、早期発見に努める。[生徒指導課]</p>	<p>①学期目標の自己評価の「できた」が平均85%以上。                      ②各学年で、毎月服装指導を実施し、頭髪・服装指導を受ける生徒が5%以内。                      ③年間遅刻10回以上の生徒が5%以内。                      ④生徒自己評価で「チャイムが鳴った時に学習準備ができていいる」の評価度が80%以上。                      ⑤基本的なあいさつがきちんと出来る生徒が90%以上。                      ⑥適切な応対ができ敬語が使える生徒が90%以上。                       ⑦自主・自律的に身だしなみについて考え、行動できた自己評価した生徒が90%以上(専攻科)                      ⑧いじめに関して相談があった場合は、すみやかに対応する。</p>	<p>①月目標の達成は年間平均83%である                      ②各学年で指導を受ける生徒は4.3%であった。                      ③遅刻回数10回以上の者は1名だった。全体の0.8%であった。                      ④「チャイムが鳴る前に席に着く」は93.6%の生徒ができていた。                      ⑤「あいさつができていいる」は86.9%であった。                      ⑥「適切なことばづかいができていいる」生徒は88.6%であった。                       ⑦自主・自律的に身だしなみについて考え、行動できた自己評価した生徒が90%であった。(専攻科)                      ⑧いじめに関する相談はなかったが、友人関係で悩みがある生徒に個別面談を実施している。「先生にいろいろな悩みを相談できる」は47.4%だった。</p>	<p style="text-align: center;">B  A  A  B  A  B</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">(所見) 臨床実習・臨地実習では社会人と同様の対応が求められるので、学校生活において、あいさつや適切な言葉遣い、態度が実に実践できるような指導を実施している。場に                      応じた臨機応変な対応ができるように取り組んでいく必要がある。</p>	<p>総合評価はBであるが、生徒は社会人になるための発展途上の段階にある。今出来るというより、社会に出るまでに出来るようになるために、その過程を教員が支援することが重要であり、その支援は活動計画に示されているとおおり、しっかりと実施されている。                      病める人々を対象とし、命にかかわる医療現場では、高校生といえども患者・臨床現場からの要求が大きい。そういった環境において、成長の過程で悩みを持つ学生も多いが、相談相手として、教科やクラス担任とは別に、養護教諭を配置すべきである。もちろん看護教員は医学、カウンセリングの素養は持ち合わせており、悩み相談にも応じるが、一方で成績評価者であり、養護教諭のように無批判に生徒を受け入れることができる立場にはないためである。</p> <p>生徒は15歳から20歳という成長発達過程であり、在学中の5年間は人間形成の重要な期間である。看護師として豊かな心を持ち、病める人々の痛みを理解しようとする心を育てられるよう取り組んでいく。                      悩みがある生徒が相談しやすい環境や支援体制の整備を充実させていく。                      評価指標等の評価方法を再検討し、成長発達過程の段階に応じた内容とし、好ましい人間関係や資質向上が図れるように取り組んでいく。</p>
		活動計画	活動計画による実施状況		
		<p>生徒指導やマナー指導について、全教職員で共通理解のもと、協力して取り組む。                      ①HR担任と教科担任は、始業のチャイム時には教室にいるようにする。                      ②HR活動のテーマに、「服装」「頭髪」「礼儀」「マナー」等を取り上げ、意識の向上や強化に努めるとともに、実践力の向上を図る。                      ③遅刻回数や欠席回数の月別累積を集計し、結果をもとに生徒を励ます。                      ④教科担任は、チャイムとともに授業を開始し、授業終了時には次回の授業内容を明確にする。                      ⑤教師同士の朝夕のあいさつをしっかりと行う。生徒にも教師側からあいさつを大きな声で行い、生徒の意識を高める。生徒会役員や生活委員による「あいさつ運動」を実施する。                      ⑥職員室は外部社会と想定させ、礼儀やことばづかいの指導を徹底する。                      ⑦専攻科においては、社会人としての身だしなみやマナーについて考える時間を設定する。                      ⑧いじめに関するアンケート調査を実施する。</p>	<p>職員会議で協議し、生徒指導課が中心となり全教職員の共通理解のもとで取り組んだ。                      ①授業評価において「始まりと終わりのチャイムは守られていますか」に対して学校全体で93.0%が「かなり良い」と「まあ良い」と評価している。                      ②日常指導において服装チェックを実施している。2年次の臨地実習前11月にマナー講習会を開催し、実践力の向上を図っている。                      ③遅刻回数が多い生徒はいなかった。                      ④チャイムとともに授業は開始できている。次回の授業内容を明確にすることにより予習に繋げている。                      ③街頭指導時を年間5回実施した。生徒会役員による「あいさつ運動」により自主的なあいさつ・声かけに繋がった。また、実習前のマナーチェックでは学校生活での礼儀やことばづかいを評価・指導した。                      ⑥職員室入室時のマナーについて教員間で共通理解のもと、指導を行っている。                      ⑦機会を捉えて社会人としての身だしなみやマナーを考える働きかけをした。(専攻科)                      ⑧7月と11月にいじめに関するアンケート調査を実施した。いじめに繋がる事案はなかった。相談しやすい雰囲気づくりを心がけている</p>		